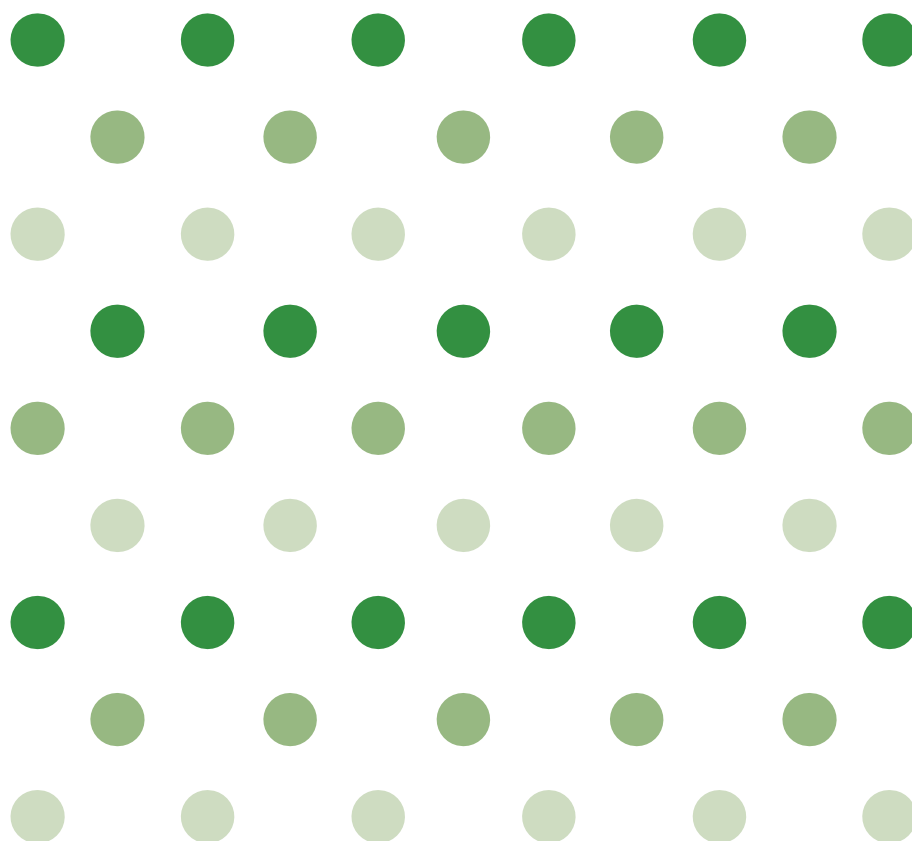


平成 27 年度

東京都教職員研修センター紀要

第 15 号



平成 28 年 3 月

はじめに

現在、そしてこれからの社会は、グローバル化が一層進展する変化の激しい社会です。次代を担う子供たちが、この変化の激しい時代を切り拓き、生き抜いていくには、自ら主体的に考え、新たなものを創造する力や他者と協働して課題を解決する力等を身に付けることが必要です。

平成27年11月に策定された「東京都教育施策大綱」では、重点事項Ⅰ「個々の子供に応じたきめ細かい教育の充実」として、「方針1 全ての子供たちに基礎・基本を確実に習得させる取組の推進」、「方針2 子供たちの思考力・判断力・表現力を育成する教育の推進」、「方針4 教育効果向上に向けた新たな学習スタイルの検討」が示されています。また、重点事項Ⅱ「社会的自立を促す教育の推進」として、「方針2 自立的で、自分らしい生き方を実現するキャリア教育の推進」、重点事項Ⅵ「子供たちの健全な心を育む取組」として、「方針1 学校において、いじめ、暴力行為、自殺等の防止対策の強化」という方針が掲げられています。

このような方向性が示される中、今年度、東京都教職員研修センターでは、以下の5つの研究に取り組み、その成果を本紀要にまとめました。

「多様な教育課題に対応したカリキュラムモデルの開発(2年次)」では、多様な教育課題を共通性や関連性の視点から分類・整理するとともに、教育課程上の位置付けを「学校必修」、「学校選択」として明確にした上で、各教科等の指導において効果的・効率的に取り組むことができるカリキュラムを開発しました。

「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる指導の工夫(2年次)」では、特に学力に課題のある子供が、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるようにするために、一人一人の「分かり方の特性」を生かした指導法について、算数・数学を中心に開発しました。

「変化の激しい時代を生き抜く能力の育成～子供たちが課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習指導の在り方～(1年次)」では、変化の激しい社会に対応するために求められる資質・能力をアクティブ・ラーニングの視点に立って育成することをねらいとして、授業改善に資する各教科等の指導法について開発しました。

『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえた指導と評価の在り方では、「特別の教科 道徳」が求める「考える道徳」「議論する道徳」につながる指導法の核となる発問と、それを中心に据えた授業展開を開発するとともに、子供の成長を適切に把握するための評価の在り方について、学習指導要領が示す内容を踏まえて整理しました。

「ICTを活用した指導法に関する研究」では、「思考の可視化」「瞬時の共有化」「試行の繰り返し」というICTの特長を生かし、「いつもの授業に⊕（プラス）ICT」をキャッチフレーズに、学習場面におけるICTを活用した指導モデルを開発しました。

各教育委員会や学校におかれましては、本紀要に掲載した研究内容等を、教育課程の工夫・改善、教員の資質・能力の向上や家庭や地域に対する啓発など、教育課題の解決に向けて活用していただければ幸いです。

結びに、当センターの教育課題研究の推進に当たり、関係教育委員会をはじめ、様々な検証授業に御協力いただいた学校の先生方、多くの御示唆や御助言をいただいた協議委員の方々に御礼を申し上げます。

平成28年3月

東京都教職員研修センター所長
金子一彦

目 次

1 多様な教育課題に対応したカリキュラムモデルの開発（2年次）	3
2 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる指導の工夫（2年次）	15
3 変化の激しい時代を生き抜く能力の育成 ～子供たちが課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習指導の在り方～（1年次）	59
4 「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導と評価の在り方	91
5 ICTを活用した指導法に関する研究	103
○ 参考文献・資料等	115
○ 研究に携わった所員・教員研究生・調査委員等	118